

共に力を合わせ、新型コロナウイルスに打ち勝ちましょう！

— 新年度を迎えて —

施設長 関 裕子

ひのき工房の道端に咲く水仙の花はかわいらしく春風に揺られ、ホームスタウンの桜並木は美しく、こんなに早い時期の開花は、施設が元八王子に移ってきて以来初めてです。ところが、新年度の早い春の訪れを楽しむ余裕もなく、私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大を恐れ、神経をとがらせる毎日です。

当施設では、毎日館内・車中の消毒を実施し、丁寧にこまめな手洗い・消毒・マスクの着用を利用者の皆さんに声を掛け感染対策を行っています。マスク不足のため職員が早朝から並んでマスクを手に入れたり、ボランティアさん手作りのマスクを利用者さんに配布して対応しています。お昼の食事でもできるだけ密集しないよう時間をずらし、席を離しています。また、検温では、施設入口だけでなく、ご家庭の皆様にもご協力いただき、通所前、送迎乗車前に計っていただくなど、利用者の皆さんの安全・安心にご理解いただき本当にありがとうございます。

今年、5月に予定していた福祉まつりは中止の連絡が届き、春の一泊旅行は9月末に延期しました。また、買い物・遠出等の外出レクを増やして皆さんに喜んでいただく予定でしたが、コロナ感染収束状況を見て、夏以降に計画していきます。今は、一人ひとりが人混みを避け、外出を控え、我慢し頑張らなければなりません。

東京都では外出自粛要請の出ている大変な状況の中、新年度を迎えましたが、私たち職員は、利用者、スタッフの一人も感染者を出さず、ひのき工房が閉鎖にならないよう、可能な限り感染対策の徹底に努めたいと思いますので、利用者、ご家族、グループホームのスタッフの皆さんのご協力をお願い致します。また、世界中の新型コロナ感染症の早期終息を願うと共に、皆さんが笑顔で安心して過ごせる日が早く来ることを願っております。



令和2年度 事業運営方針

1. すべての人に対する尊厳と敬意を持って、利用者の立場に立った支援を行い、利用者がいきいきと楽しく働けるよう支援する
2. 昨年度末、職員体制を強化したことで、今年度は、より手厚い利用者支援の充実を図ると共に、就労継続支援事業の売上増を図り利用者工賃アップを目指す。今後毎年、工賃アップを図り、5年以内に平均工賃月額3万円を目指す
3. この地域で障害のある人たちが共に生きていけるように、地元住民・町会・小中学校・福祉施設・病院等との地域交流を深めると共に、地域の皆さまにも役立ち、親しんでいただける施設作りを目指す
4. 利用者ご家族の高齢化等に伴い、ご家族ご本人の要望するグループホーム開設の可能性を具体的に検討し、3年以内の実現を目指す

まつ かい おこな ミニひな祭り会を行いました♪



現在、世界でコロナウイルスが流行している為、施設でのイベントが少なくなっています。その中でも、3月3日に、感染症に十分に注意しながら、ミニひな祭り会をしました。お茶の時間を使って、グループで会話をしながら、いつもとは違う「おまんじゅう」や「ひなあられ」を食べながら、みなさん楽しんで頂きました。

ひのき工房では、今後もコロナちゃんに負けず、少しでも皆さんに楽しんでもらうために今後とも頑張っていきます。(記・渡辺広翔)

みなさまにお知らせ

①4月11日(土)に開催を予定していましたが、「しろくまごはん」は、新型コロナウイルスの関係で中止となりました。5月の開催は、来月号のひのき工房だよりでお知らせします。

②3月に、ひのき工房を利用されている方には「感染症について」のお手紙を幾度もお渡しさせていただきました。施設内での感染を防ぐために、ご理解ご協力の程、宜しくお願いいたします。尚、再度お手紙が欲しい方は、担当職員までお声掛け下さい。

2020 TOKYO パラリンピック (4)

アーチェリー (ルール詳細)

的を狙って矢を放ち、当たった場所によって得られる得点で勝敗を競う競技です。選手は障害の種類や程度によって「W1（四肢の障害により車椅子を使用）」「W2（下半身の障害により車椅子を使用）」「ST（立つか、椅子に座って競技ができる）」の3つのクラスに分類されますが、競技種別では、「リカーブオープン」「コンパウンドオープン」「W1オープン」の3つに分けられ、それぞれ男女別・混合（MIX）の合計9個の種別となります。

パラリンピックのアーチェリーでは、2種類の弓具を使用します。ひとつは、一般的な「リカーブ」という弓、もうひとつは、弦を引く力が弱くても矢を速く、遠くまで飛ばすことができるように滑車が設置された「コンパウンド」という弓です。



～ 選手紹介 ～

上山 友祐（うえやま ともひろ） 選手

高校の時友人に誘われてアーチェリーに出会い大学ではアーチェリー部に入部し大会なので活躍してきた、2010年原因不明の両下肢機能障害で足が麻痺したがその後も続けて2011年国内のpara大会に初出場して2位に入った。2016年のリオオリンピック初出場ながら1位に入賞し東京オリンピックでは、個人戦はもちろんチーム戦でもメダル獲得を狙っている。

岡崎愛子（おかざき あいこ）選手

大学 2 年の頃脱線事故にあい頸髄を損傷、首から下が麻痺する状態になった。

アーチェリーとの出会いは 2013 年に母からの進めで弓を持ち、2018 年から介助者とともに大会参加し、同年 9 月コンパウンドボウを新しくした事で急成長し 2019 年に初めての国際大会となる世界選手権に出場する。結果は初戦敗退ながらもミックス戦では 3 位になり 2020 年東京オリンピックの出場枠を獲得した。



パラリンピックの歴史

パラリンピックの起源は 1948 年、医師ルードウィヒ・グッドマン博士の提唱によって、ロンドン郊外のストーク・マンデビル病院内で開かれたアーチェリーの競技会です。第 2 次世界大戦で主に脊髄を損傷した兵士たちの、リハビリの一環として行われたこの大会は回を重ね、1952 年に国際大会になりました。

さらに 1960 年のローマ大会からはオリンピック開催国で、1988 年のソウル大会からはオリンピックの直後に同じ場所で開催されるようになります。

～もうひとつのオリンピック～

当初はリハビリテーションのためのスポーツだったパラリンピックですが、現在はアスリートによる競技スポーツへと発展しています。出場者も「車いす使用者」から対象が広がり、もうひとつの (Parallel) + オリンピック (Olympic) という意味で、「パラリンピック」という公式名称も定められました。2000 年にシドニーで開催された第 11 回パラリンピック競技大会で、国際オリンピック委員会 (IOC) と IPC が「オリンピック開催国は、オリンピック終了後にパラリンピックを開催する」などの基本事項に合意し、双方の協力関係を深めました。

こうしてパラリンピックは、「もうひとつのオリンピック」として、さらなる発展を続けています。